

第 10 期

第 2 四半期報告書

(平成 15 年 10 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで)



平成 16 年 2 月 10 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

四半期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年 同期比	前年度
		第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	第3四半期 H15.1.1～ H15.3.31	第4四半期 H15.4.1～ H15.6.30	第1四半期 H15.7.1～ H15.9.30	第2四半期 H15.10.1～ H15.12.31	累計 H15.7.1～ H15.12.31		前年 同期累計 H14.7.1～ H14.12.31
営業収益									
売上高		38,001	39,670	43,092	70,824	43,880	114,705	+15.0%	99,741
営業費用									
売上原価		39,237	35,296	38,855	39,449	43,052	82,501	+5.9%	77,923
販売費及び一般管理費		8,816	9,577	9,525	9,016	8,878	17,894	3.7%	18,581
営業損益		10,052	5,203	5,287	22,359	8,049	14,310		3,235
営業外収益		229	708	47	1,961	511	2,472		234
営業外費用		1,642	1,482	1,570	1,577	1,497	3,074		3,381
経常損益		11,465	5,977	6,809	22,743	9,034	13,708		88
特別利益		-	-	-	-	-	-		-
特別損失		-	-	-	379	514	893		-
税引前四半期(当期)純損益		11,465	5,977	6,809	22,363	9,548	12,814		88
法人税、住民税及び事業税		-	-	1,192	-	531	531		-
四半期(当期)純損益		11,465	5,977	8,001	22,363	10,079	12,283		88
前四半期繰越損益		126,321	137,787	143,764	151,766	129,403	151,766		137,875
四半期(当期)未処分損益		137,787	143,764	151,766	129,403	139,482	139,482		137,787

期中平均株式数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	-	5,620株
1株当たり当期純損益	2,040円	1,063円	1,423円	3,979円	1,793円	2,185円	-	15円
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	-	-	-	3,833円	-	2,107円	-	14円

(注1)前年度第2四半期、第3四半期、第4四半期、今年度第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(2) 部門別売上高 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年同期比 (注2)	前年度
		第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	第3四半期 H15.1.1～ H15.3.31	第4四半期 H15.4.1～ H15.6.30	第1四半期 H15.7.1～ H15.9.30	第2四半期 H15.10.1～ H15.12.31	累計 H15.7.1～ H15.12.31		前年 同期累計 H14.7.1～ H14.12.31
本社		354	411	2,483	461	1,006	1,467	+75.9%	834
鬼怒川店		8,790	8,104	8,019	14,710	8,583	23,293	0.1%	23,328
那須店		4,886	4,458	5,528	11,245	5,868	17,113	+14.1%	14,999
秋田六郷店		3,302	2,772	3,909	5,911	3,897	9,809	+11.7%	8,785
山中湖店		7,044	7,851	8,338	14,755	8,338	23,093	+24.5%	18,546
沼田店		6,810	7,389	6,262	8,753	7,011	15,764	+7.5%	14,664
水戸大洗店		4,761	6,140	5,081	9,427	6,082	15,510	+15.9%	13,380
北上店		2,051	2,541	3,469	5,558	3,093	8,652	+66.4%	5,201
合計		38,001	39,670	43,092	70,824	43,880	114,705	+15.0%	99,741

(3) 部門別経常損益 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年同期比 (差額)	前年度
		第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	第3四半期 H15.1.1～ H15.3.31	第4四半期 H15.4.1～ H15.6.30	第1四半期 H15.7.1～ H15.9.30	第2四半期 H15.10.1～ H15.12.31	累計 H15.7.1～ H15.12.31		前年 同期累計 H14.7.1～ H14.12.31
本社		8,936	9,023	7,656	7,251	8,457	15,709	+3,188	18,897
鬼怒川店		830	893	725	6,631	324	6,956	287	7,243
那須店		448	311	46	5,525	489	6,015	+1,468	4,547
秋田六郷店		1,434	1,088	1,091	1,424	998	426	+770	344
山中湖店		566	2,037	1,163	7,882	808	8,691	+2,457	6,234
沼田店		1,226	1,829	731	3,233	1,104	4,337	+934	3,403
水戸大洗店		724	1,049	138	4,351	282	4,069	+1,372	2,697
北上店		2,545	1,987	868	946	2,023	1,077	+3,719	4,796
合計		11,465	5,977	6,809	22,743	9,034	13,708	+13,620	88

(4) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	前年度 第2四半期末 H14.12.31	前年度 第3四半期末 H15.3.31	前年度 第4四半期末 H15.6.30	今年度 第1四半期末 H15.9.30	今年度 第2四半期末 H15.12.31
(資産の部)					
流動資産					
現金預金	10,726	6,796	11,185	30,787	28,534
その他	963	1,462	4,302	4,346	5,306
流動資産合計	11,689	8,258	15,487	35,134	33,841
固定資産					
有形固定資産	401,410	394,768	389,232	385,254	381,183
無形固定資産	2,644	2,483	2,323	2,163	2,166
投資その他の資産	13,590	13,481	15,514	15,405	17,162
固定資産合計	417,645	410,730	407,071	402,823	400,511
繰延資産	184	92	-	-	-
資産合計	429,520	419,081	422,559	437,957	434,352
(負債の部)					
流動負債	35,311	39,310	57,061	4,519	8,929
固定負債	231,795	223,330	217,064	262,641	264,706
負債合計	267,107	262,641	274,125	267,161	273,635
(資本の部)					
資本金	281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
資本剰余金					
資本準備金	19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
利益剰余金					
四半期(当期)未処分損益	137,787	143,764	151,766	129,403	139,482
資本合計	162,412	156,435	148,433	170,796	160,717
負債資本合計	429,520	419,081	422,559	437,957	434,352
発行済株式総数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株
1株当たり純資産	28,899円	27,835円	26,411円	30,390円	28,597円

(5) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1に該当する金額を計上しております。
繰延資産の処理方法	各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の4分の1に該当する金額を計上しております。
経過勘定項目	未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。
税金の計上基準	法人税、住民税および事業税は、計上を省略しております。
消費税等の会計処理	仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しております。

なお、当該四半期の貸借対照表および損益計算書については、公認会計士の監査を受けておりません。

(6) 重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却の方法
- (1) 有形固定資産
定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下の通りです。
- | | |
|--------|--------|
| 建物 | 17～18年 |
| 構築物 | 15～20年 |
| 車両運搬具 | 4～6年 |
| 工具器具備品 | 3～8年 |
- (2) 無形固定資産
定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
- (3) 長期前払費用
定額法を採用しております。
なお、期間内均等償却によっております。
2. リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
3. 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

第 10 期上半期（平成 15 年 7 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）の業績の概況

(1) 本社

11 月に「仙台亙理店」の新規出店が決まりましたが、「浦佐店」についてはオーナーの資金調達の不調により契約解除となり、企画調整費の 2/3 相当額を返金したため、売上高は 1,467 千円にとどまりました。しかし、経費削減などにより、経常損失は 3,188 千円減少し、改善されております。

(2) 鬼怒川店

7 店舗の中で唯一、稼働率（63.3 61.4%）、売上高（ 0.1%）、経常利益（ 287 千円）とも微減となりました。鬼怒川地区全体の観光客が減少している影響がありますが、19 室という施設規模では逆に業績を伸ばす余地も十分あると考えております。周辺 PR の強化に加え、来期にかけて設備の改良などを行い、業績の回復を図りたいと計画しております。

(3) 那須店

前期は利用者が伸び悩んでおりましたが、今上半期は前年同期に比べ、稼働率（60.7 69.8%）売上高（+14.1%）経常利益（+1,468 千円）とも大幅に業績が伸びております。12 月にオープン以来初めての大幅なリニューアルを行ったため、下半期も引き続き業績の伸びを期待しているところです。

(4) 秋田六郷店

上半期累計で、稼働率（48.6 57.1%）、売上高（+11.7%）、経常利益（+770 千円）とも前年同期を上回っておりますが、下半期は赤字が予想される為、通期での黒字転換にはいっそうの業績向上が必要な状況です。経費の節減にも努めたいと考えております。

(5) 山中湖店

オープン（2001.7）3 年目に入りましたが利用者の増加傾向が続いており、上半期累計で、稼働率（72.6 80.6%）、売上高（+24.5%）、経常利益（+2,457 千円）とも大幅に前年同期を上回っております。ただし、増加の余地も少なくなっており、今後は頭打ちの状況を迎えると予想しております。

(6) 沼田店

「山中湖店」同様、利用者の増加傾向が続いておりますが、上半期累計で、稼働率（78.8 85.6%）、売上高（+7.5%）、経常利益（+934 千円）と、増加幅は小さくなっており、今後は頭打ちの状況を迎えると予想しております。

(7) 水戸大洗店

オープン（2001.10）から 3 年目に入りましたが、引き続き利用者が増え、上半期累計で、稼働率（60.4 76.4%）、売上高（+15.9%）、経常利益（+1,372 千円）とも大幅に前年同期を上回っております。当初は低迷期がありましたが、リピーターが 50%を越え、きわめて安定した状態に達しております。

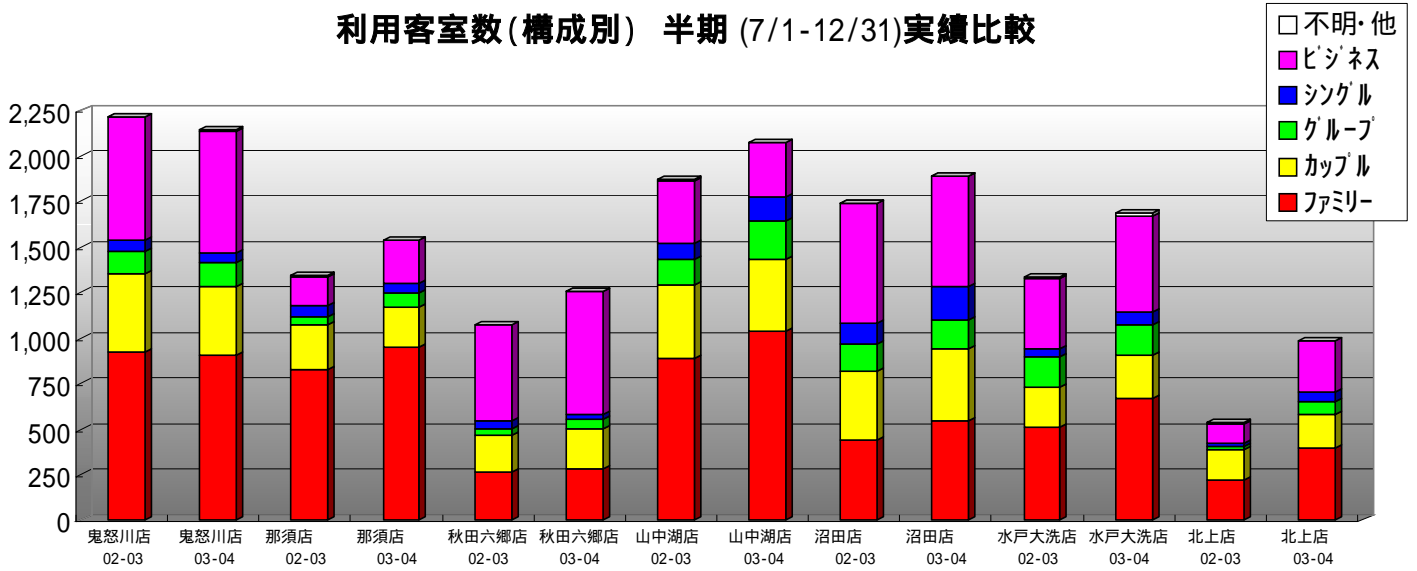
(8) 北上店

オープン（2002.7）2 年目に入り、上半期累計で稼働率（24.1 44.7%）、売上高（+66.4%）、経常利益（+3,719 千円）と大幅に前年同期を上回りました。ただし、通期での黒字化には遠い状況です。「仙台亙理店」のオープン（2004.4.28 予定）により、「秋田六郷店」「北上店」の集客増を図り、来期の黒字転換を実現したいと考えております。

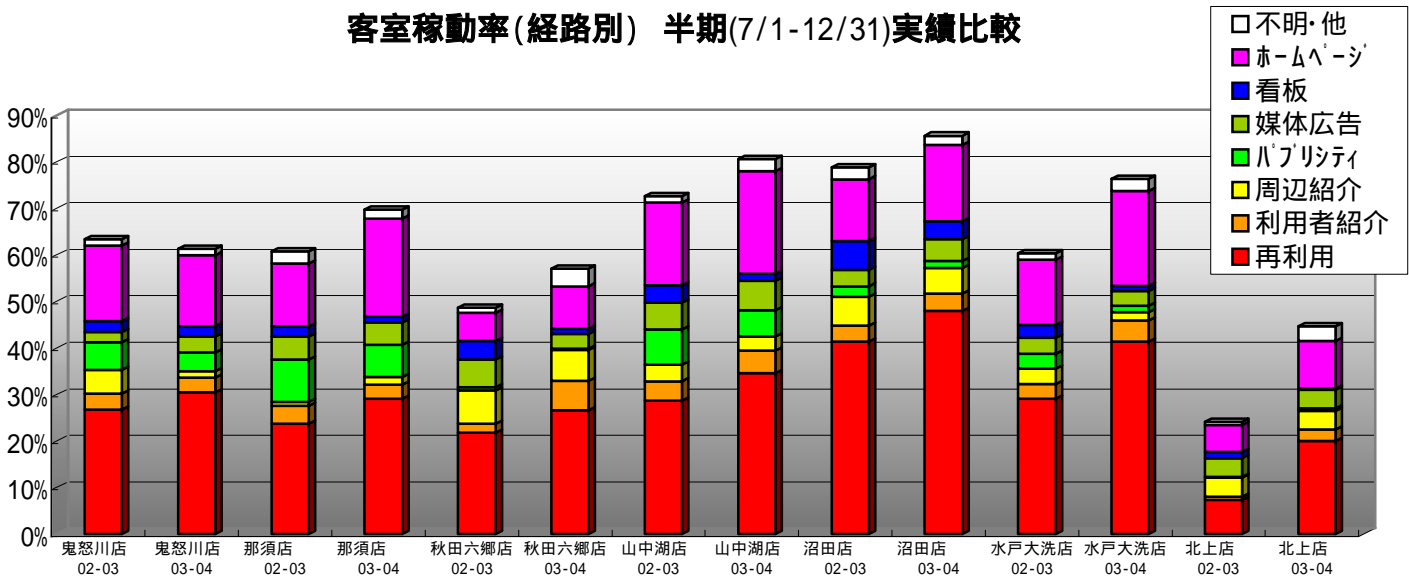
(9) 全社

「鬼怒川店」を除く全店舗で業績が前年同期を上回り、上半期累計で売上高 114,705 千円（前年同期比 +15.0%）、営業利益 14,310 千円（前年同期は 3,235 千円）、経常利益 13,708 千円（前年同期は 88 千円）となりました。不測の状況が発生しない限り、通期での黒字達成はほぼ確実な見通しと考えております。

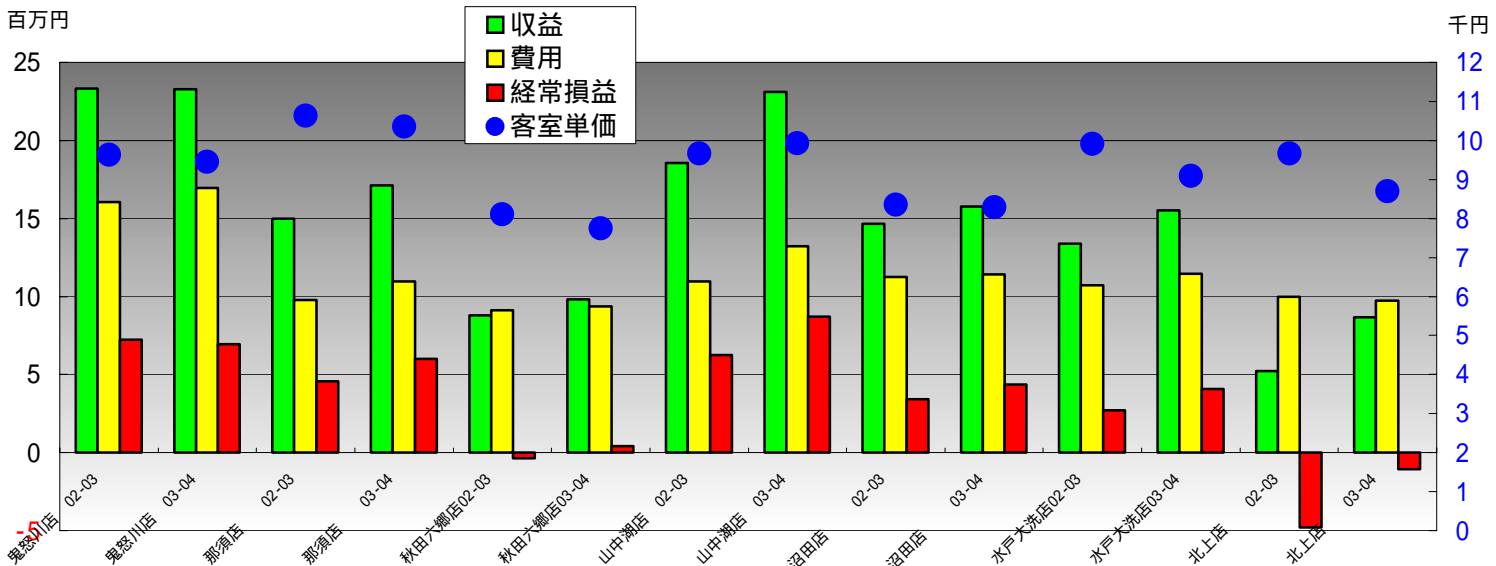
利用客室数(構成別) 半期(7/1-12/31)実績比較



客室稼働率(経路別) 半期(7/1-12/31)実績比較



収益・費用・経常損益・客室単価 半期(7/1-12/31)実績比較



第10期通期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 前年度実績 H14.7.1～ H15.6.30	今年度予想				
		第1四半期 実績 H15.7.1-9.30	第2四半期 実績 H15.10.1-12.31	第3四半期 予想 H16.1.1-3.31	第4四半期 予想 H16.4.1-6.30	通期予想 H15.7.1～ H16.6.30
売上高	182,504	70,824	43,880	41,000	46,000	201,704
経常損益	12,699	22,743	9,034	4,291	5,000	4,418
当期純損益	13,891	22,363	10,079	4,291	5,993	2,000

上半期の実績は、売上高(110,000 114,705 千円)、経常損益(9,000 13,708 千円)ともに、前期末の予想を上回り、下半期の業績が前期並みに終わったとしても通期では黒字となる見通しであり、設立以来の悲願である初の黒字転換がほぼ確実な状況となっております。ようやく7店舗で、チェーン全体としての利益計上が可能になったと言えます。ただし、経営基盤の強化と業績の伸張を図るためには、一定の新規投資を継続する必要があります。新規出店による費用の増大と資金繰りの問題を考え、過大な投資を抑制しつつ、来期以降の成長を図れるよう慎重に事業を拡大していく所存です。

資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第9期 第3四半期 H15.1.1～3.31	第9期 第4四半期 H15.4.1～6.30	第10期 第1四半期 H15.7.1～9.30	第10期 第2四半期 H15.10.1～12.31
現金および預金の増減額		3,930	4,388	19,602	2,253
現金および預金の四半期首残高		10,726	6,796	11,185	30,787
現金および預金の四半期末残高		6,796	11,185	30,787	28,534

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第9期 第3四半期 H15.1.1～3.31	第9期 第4四半期 H15.4.1～6.30	第10期 第1四半期 H15.7.1～9.30	第10期 第2四半期 H15.10.1～12.31
短期借入金の増減額		5,000	10,000	15,000	-
短期借入金の四半期首残高		-	5,000	15,000	-
短期借入金の四半期末残高		5,000	15,000	-	-

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております) 1年以内返済予定額を含みます。

科目	期別	第9期 第3四半期 H15.1.1～3.31	第9期 第4四半期 H15.4.1～6.30	第10期 第1四半期 H15.7.1～9.30	第10期 第2四半期 H15.10.1～12.31
長期借入金の増減額		7,653	3,653	13,570	2,470
長期借入金の四半期首残高		256,615	248,962	245,309	258,879
長期借入金の四半期末残高		248,962	245,309	258,879	261,349

借入金の増減は、三井住友銀行からの設備資金借入れ8,900千円(11月実行)および朝日信用金庫からの運転資金借入れ3,000千円(12月実行、東京信用保証協会保証による制度融資)と約定返済の差額です。

今後の事業展開と出店計画について

「仙台亙理店」が4月にオープン

11月、ようやく8号「仙台亙理店」の出店契約がまとまり、4月28日のオープンに向け順調に工事が進んでいます。関東と東北を結ぶ主要幹線道路である国道6号線に面し、仙台市街にも近い好立地ですので、比較的短期間に稼働率を上げ、「北上店」「秋田六郷店」への相乗効果も期待しているところです。

その他の出店計画

「仙台亙理店」に続き、山梨県内において9号店の計画が最終段階を迎えております。7月、夏休み前のオープンを目指しておりますが、規制の多い地域であり、許認可に時間を要するため、スケジュールは流動的です。許認可手続きの見通しが立ち、正式に契約を締結した時点でお知らせする予定です。

これ以外にも、茨城県、千葉県、神奈川県および関西においても計画の具体化が進んでおりますが、性急な投資は損益・収支を悪化させる要因ともなりますので、慎重に立地と時期を選びながら、新規出店を図る計画です。

「那須店」の改築工事完了

この上半期において、順次、各店舗の補修・改装・改築を行いました。とくに「那須店」においては12月に、オープン以来の課題であった浴室ユニットの交換、床壁の断熱性強化、支配人室・リネン室の拡張などの大規模な改築工事を行っております。

ネットの効果的な活用

年々当社ウェブサイトへのアクセス数が増加し、ネット経由での予約数も増加しております。そこで、さらに最小の費用で認知度を向上させるため、専任の担当者を置き、ウェブサイトのデザインやキーワードをきめ細かく改良する態勢を整備いたしました。新規出店に関する問い合わせや情報提供もサイト上から可能とし、すでに数軒の引き合いを頂戴しております。

以上